



復刊第44号

### 万博医療奉仕を終えて

会長 三神美和

暑かった夏も去り、勉強に行楽に好適の季節となりました。会員の皆様には相変らずお元気に、社会のため、人類のために活躍の事と存じます。

長い間ただそれだけにかかり切っていた万博医療奉仕も、九月十三日つがなく終了しました。今はただ目的を完了した喜びと、責任を果した感激で一ぱいです。会員の皆様！ 本当にありがとうございました。皆様のご協力があつたればこそであります。ここに改めて厚く御礼申し上げます。

一昨年五月、広島総会にて、会として万博医療奉仕に踏み切った時、その当時は果してこれが出るのかどうか、全く見当もつきませんでした。それからまず、資金調達が始まり、小出さんのご好意によるルーペンダンの配布、更に寄付などで少しずつ見通しはついてきたものの、肝心の奉仕の人員については、また困難につき当りました。地区単位、クラス単位などに分け



万博協会本部で三神会長と猫西課長

てお願いすることになって、ようやく全国的規模による組織が整い、人員的にも明るい見通しになってきました。しかし実際になってみると、宿舎の問題、交通、入場証、事務員のことなど次々に処理しなければならぬことばかりでしたが、理事の方たちや、とり分け事務の人たちのたゆまないご努力、ご協力によって道は開けて参りま

した。それでも初めの頃は、寒さや交通の点などでご不自由をおかけしましたが、万博そのものの運営の好転とともに、医療奉仕も軌道にのって参りました。思えばこの二年間は全く無我無中でした。国家的事業に対する参加、奉仕をうち出した以上、是が非でもやり遂げねばならないという日本女性のひたむきの情熱が全会員を集結し、この大事業を完遂させたのであります。日本の女医の実力を如実に示したものといえましよう。今度ほど日本女医会の皆様が大きく力を合わせたことは無いと思えます。このご協力の事実は、今後、日本女医会の発展に大きな力となることでしょう。

やればやれるという自信を会員の皆様のお一人お一人がお持ちになったことと思えます。

この自信こそが今後の日本女医会を支える大きな力となることと信じます。万博医療は多くの教訓を私たちに与えました。しかし会員の皆様はこの自信と、日本女医会への再認識とが最も貴重な収穫であったと思えます。今後とも共に力を合せ、女医として、社会のため貢献しようではありませんか。

万博医療終結総括の理事会が先日開かれました。その時、医療奉仕された会員に記念品旅費補助として、一人一日五千円ずつ差上げすることに決定しました。当初、理事会では、一日八名ご奉仕くださることとして、のべ人数一、四六四名と計算しておりましたが、

皆さまのご熱意により予想よりはるかに多く、一、七二六名となり、したがって予定額をかなり上廻りました。しかし何とかやり繰りして差上げることになりました。この会誌ができ上がる頃には、すでにお手許に届くことと存じますが、日本女医会としての微意をお汲みとりくださいますようお願い申し上げます。

来る十一月十五日はかねて申し上げましたように、本会の臨時総会を開催致します。その時の最大の議事は、理事八名監事三名の選出、会長、副会長の決定であります。すでに別項のように十三名の理事候補者も出揃っておりますし、選挙管理委員もまきまりました。委任状は投票には通用しませんが、できるだけ多数ご出席下さるようお願い申し上げます。

一九七二年は国際女医会総会がパリで開かれます。この時の演題は「トキソプラスモーション」ということであります。日本における本疾患の分布、頻度など全国的ものを集計して出したいと念じております。これには各方面の方々が分担して集め、立派なものにして報告するのがよいと思っております。どうぞご協力くださいませ。

社団法人としての日本女医会の仕事はこれからかと存じます。どういふ方向へ会を進めて行き、仕事をして行くかはこれからの課題だと思います。会員の皆様のおくれた頭脳の集結とご協力とがこれを決定してくださることと信じております。日本女医会を意義あ

### 万国博医療奉仕経過日程

- 43年2月11日 臨時総会にて東京理事提案の万博医療奉仕参加を決議す(於 東京女子医大講堂)
- 6月 万博資金獲得のため万博グラフ
- 7月 白衣その他を発送(大阪より)
- 5月18日 第十三回総会(於広島)
- 小出先生(高知県支部)より資金作り役立てるためルーペンダンを売るとの提案あり、
- 10月 救急医療奉仕に対する役務提供を協会に申し入れる。
- 10月 万博寄附金を募金として寄付(一口五〇〇円)依頼状全会員に発送
- 11月16日 臨時評議員会(万博の件)
- 12月 万博協会会長石坂泰三氏より正式に役務提供受諾の書面あり。
- 12月 万博募金窓口は本部のみとすることに決定、
- 12月 ルーペンダン(第一製品)を各県支部単位に発送
- 12月21日 三神会長、山崎理事万博の件で看護協会と面談
- 44年1月 ルーペンダン第一製品(粗悪品)を各支部より回収することになる。
- 2月 医療奉仕参加に対する申し込みのアンケートを全会員に発送す。
- 4月 万博医療参加のため募金目標総額を一千万円とすることに決定す。
- 4月 三神会長、万博鈴木事務総長と面談、昼食、宿舎の件を要請(於東京芝ビル内万博協会)

らしめるため一層のご協力をお願い申し上げます。

一九七〇・一〇・四

万博ボランティア後がき

大阪第三支部

沢 トシ子

「人間の進歩と調和」を謳い文句の万国博も、様々の余波を残して、真夏の夜の、花火大会の如く。またたく間に、その華麗と喧噪の幕を閉じてしまいました。我が日本女医学会の、万博医療奉仕が、本部諸先生の熱意ある推進力と、全国各地の会員諸姉の会員としての義務を果そうという真面目な挺身と、更には、地元大阪府女医学会の先生方の大同小異の精神に基づいた全面的ご協力の下に、実現迄の様々の試行錯誤、千余曲折にもかかわらず、大過なく終了致しました事は、誠に同慶至極と考える次第でございます。万博会場に於ける医療奉仕という事が果

して意義ありや、なしやと申します事は、日本の全女医が結束してボランティアを行なったという純粋な花理的行爲に意味があるのでありまして現実の万国博は予想以上の入場人員の為、多大の収益があった由、洩れ聞くにつけても、流石は、エコノミックアニマル。あの華麗なパビリオンの立ち並ぶ巨大な会場の片隅の、うっかりすれば、見過してしまいたいとも簡素な、万博中央診療所を思い起し、現今の我が国の医療に対する全般的な考え方と、何か相通するような一抹の淋しさと、矛盾に思い至りますのは私だけでありましょうかと、ふと皮肉な感慨がわいて来るのでございます。尚、看護協会から派遣された、きびくした優秀な看護婦諸姉の介助に感謝と讃辞を呈し、看護婦諸姉も含めた日本の医療に、経済の高度成長とバランスのとれた、進歩と調和を誇る日が一日も早く参ります様としてエコノミックアニマル的政治より脱皮した、眞の福祉国家の実現を期待して止まない次第でございます。

万博女医奮闘記

◇万博月曜広場救急所で

千葉原

和穎美知子

万博には反博だと、とかく論議があったが、日本女医学会では、開会中の医

療奉仕に参加することになった。あくまでもボランティア運動の一環として自発的に全会期を通じて女医約千七百余名が参加することになっている。又会の事業として万博グラフ白衣ルーペンダンなどを売った。安房郡では有志三

名が参加。田植時を選んだ事は一応成功であった。五月一六日のひかり三一号で大阪千里丘の宿舎(三DKのアパート)に合宿。翌朝定刻七時四五分に迎えるバスで給食センターへ、ここで従業員と共にセルフサービス一〇〇円の朝食を取る。中央診療所内女医会事務所に寄って入場証を貰い各自割当の救急所へ向う。まだ人通りの少ない会場は広い清潔な街と云う感じである。この静けさもほんのひと時、やがて人人人に埋まって一日が終るのである。月曜広場へ着くともうナースさんが鍵を開けて待っていて下さった。警察病院勤務の方で、同じく毎日代わるナース奉仕団の一人である。救急所の内部には救急用酸素ボンベから耳鼻科の診療台まで置いてあった。奥のロッカーには医師用ナース用の水色の上着が用意され新品のステetos、ストップウォッチ、血圧計が揃っている。万博が終わったらこの器具をどうするのだろうか一寸気にかかると。注射器膿盆舌圧子はすべて使い捨ての物である。九時半まではカルテをめくったり、診療室の配置を確かめたりして時を過す。一〇時頃明日の当番医の犬飼先生から電話が入り「そちらは忙しいが、寒い、様子はいかが」と案じて下さった。熱心な方は前日に下見をされる由。入場者千人に対して一六人、一日平均四五、六人の患者が出るという事でどんなハプニングが起るかと心細く待っていた。患者第一号は石川県の七〇才のおじいさん上着までしみ通る発汗悪心胸内苦悶を

訴え平素は高血圧症があるとか、エホチールを打って中央診療所へ送る。次は子供の肘関節脱臼、若夫婦が子供の手を引っぱって無理に歩かせようとしたのか? これも外科送り。「先生お代は何ほですか」「ただよ」「えらいすんまへんなー」大阪弁がひどく親しく感じられた。薬は一回分渡せばよるしい。救急車は重症でなくとも乗せて送らないと歩き疲れた患者はいつまでも動かないので後の患者が迷惑する。病気は胃カタル、靴ずれ、打撲傷、感冒、胃痙攣、虫さされ等々。外人の美しいホステスでも? と期待したが残念ながら専用の診療所がありボタンを押せば通訳嬢が出て患者と三人で話せる仕掛けになっていた。午後四時交代で大阪府医師会の先生(男子)に代る。この日の患者数二四名。第一線は責任が軽かった。最後に患者数の報告と備え付けの大学ノートに日誌を書く事になっている。このノートは奉仕した先生方の感想で埋まり、また患者からの感謝状が何枚もはり付けてあった。解放されてはじめて見物に出る。右往左往している群衆は疲れ果てたのか、皆無表情、何しろ歩かねば見えぬ、食えぬ、眠れぬと云う訳で欲ばって見物する人には歩け歩けの万博苦行となる。私達も「奉仕」とは云え家族連れ、プレサン連れあり、又クラス会を兼ねる組もあって昼は診療、夜は見物とレジャーを楽しんだ。さて万博では何を見て来たのか? 一向にまとまらないまま疲れ切って帰

- 7月 東京都内支部長会を開催
- 医療奉仕は各支部及びクラス単位で動員することになる。
- ルーパーペンダン(第二製品)を各支部別に発送
- 7月 大阪より二診療所を受持したいとの要請あり、特定の診療所を定めず合同で奉仕することに決定。
- 10月11日 社団法人日本女医学会としての正式認可を受く。
- 10月20日 看護協会協賛でなく、社団法人日本女医学会医療参加として万博協会に対し正式に申込み書を提出す。
- 12月13日 万博募金のため前座座視劇会を行う
- 45年1月24日 常任理事会(於大阪阪急ホテル)
- 1月25日 万博に関する懇談会(於明治生命会館)
- 3月13日 万博医療関係の打合わせ会(於中央給食センター)
- 3月14日 開会式
- 3月15日 宿舎より会場までのマイシロバスの出動不可能となる。
- 3月15日 阪急タクシー依頼(本部より連絡)
- 15日-30日迄 上田、村木先生の好意で宿舎より会場まで自動車提供。
- 3月31日 赤軍派の飛行機乗取り事件あり。
- 4月1日 マイシロバス出動開始(全国ビルメントナンス協会の好意による)
- 4月15日 万博医療関係懇談会(於大

房。有給、無給にかかわらず救急所等は忙しくない方が結構な事である。

◇火曜広場診療雑感

千葉県

間宮美恵子

小雨にぬれながら中央診療所から直接火曜広場へ年令甲斐もなくウキウキしてくる。火曜広場応急手当所、私の働き場所である。

座談会

「万博医療奉仕に参加して」

愛知県支部

- 出席者
- 森川みどり 支部長
  - 溝口すま子 万博委員
  - 浅井恵美子 今村信子 小倉陽子
  - 川原 昌子 加茂裕子 荻谷 愛
  - 佐藤千代子 渋谷朝子 杉浦よね
  - 富板 春代 奈倉早苗 野村きそ
  - 野村多賀子 藤林静枝 山本美代子
  - 山田 笑子 渡辺文子

昨日下見がしてあるので気楽に入。 (午前九時) 思ったより広々として、私の診療所よりよほど気が利いている。看護婦さん(警察病院から)感じの良いキビキビした若い人。お菓も注射も何種類もなく、せっかくだからもう少しそろえてあれば……とも思っただがこれもあきらめがついて却って気がらく。午前10時一番乗りの中学生、昨夜学校からすぐに大阪の友達の家に来た。神戸の人寝不足からか地下鉄の中で既に頭痛、はき気、連れの人に見物をすすめ患者さんはベツトにあずかる。二時間ほどして「おおきに」と帰つたがはたして今日の見学は出来たかどうか? 午前中は案外おんきにしていたら夏の様な暑い日射し、その上今日は日曜日、一寸のぞいた広場はゴツタ返し、午後からは追いかける様に患者さんが続く、入口からまる見えの待合室のソファには患者ならぬ疲れた見物客が一寸休ませて下さ

診察所の施設の方は如何でしたか  
D 狭いスペースにも拘らず、機能的に配置されていて仕事がいやすかつたと思います。  
E でも最初、どこにカルテや医療器具、薬品等あるか判らない上、開場の時のパツパツローダグツシユで、怪我をした患者が待ち構えているので一寸困りました。  
F 診療所の入口の鍵も無くて、困りましたね。  
「朝中央診療所へ集つた時、事務の方が、もっと充分に連絡して下さるとまごつかなくて、すみましたのですね。」  
G 「看護婦は皆、優秀で気持よかつたですね。」  
「どんな患者さんが多かつたでしょうか。」  
全員「全く同感」  
全員「外傷、頭痛、嘔吐、熱発、下痢等を訴える患者が多く、脱臼、歯痛、等の患者さんもありました。何れも、

「可哀想でもあるが「ここは病院です……」と看護婦さんも困っているらしい。結局交代時間の午後四時まで計二四名。頭痛、はき気、かぜの熱、食あたり、食べすぎの腹痛、階段で膝小僧すりむき頭をぶつける、靴ずれ、やけど(近くのレストランの料理人二人)心配した重症者なく又せっかくの外国語をつかう機会もなく、無事任務を終え日誌らしきもの三種類かいて大(次ページにつづく)

無理なスケジュールからの疲労が原因しているように思いました。もしも休養させるベツトがあるといいのにと思いました。  
H 外人の患者も数人来て、英会話の必要性を痛感しました。  
I 患者さん達、みんな喜んで感謝していましたね。無料でと言うと恐縮してね。  
J 各診療所への車の送迎をしていただきかつたですね。  
全員「同感!!」ご年輩の先生方も多かつたと思いますから。  
「宿舎は如何でしたか。」  
K 会期の終りでしたので、これ迄に泊られた先生方のいろいろのお心づかいが遣されていまして、快適に過ぎました。  
予定時間の都合上又の機会にお話を承わることとしまして、意義深い奉仕であつたことを結論といたし、閉会させて頂きます。

- 阪)
- 5月 応急手当所及び宿舎の鍵の管理がうまくいかず、問題多々あり。
  - 5月20日 宿舎の鍵をドアのポストに入れることにする。
  - 5月28日 医療関係懇談会(於大阪)
  - 6月9日 朝日新聞「声」の欄に投書あり。
  - 6月12日 医療奉仕の会員に対し優先入場許可依頼書を万博協会に提出す。
  - 6月13日 宿舎の近くに強盗侵入。
  - 6月22日 応急手当所の昼食が多少改良される。
  - 7月27日 万博医療懇談会(於大阪)
  - 9月12日 閉会式
  - 9月19日 万博医療懇談会(於大阪)
  - 10月9日 医療奉仕参加会員に対し記念品代発送。
  - 11月15日 臨時総会開催(於ホテルニューオータニ) 万博総決算報告
- ◇
- 万博宿舎設備寄贈品
  - 掃除機、トースター、電気釜各一式 福永ひろ子
  - 扇風機(六台)
  - 綾仁伸子 島田梅子 内藤依子
  - 中岡 事 長門綾子 橋本恵美子
  - ◇カーテン
  - 大阪支部、長山トシ
  - ◇テレビ、扇風機(各三台)他
  - 東洋信販
  - ◇蚊帳
  - 森千鶴 山崎倫子
  - ◇その他

阪の男の先生と交代、大阪弁の四〇前後のこの先生如才ない親切な人、相当早目に来て下さり、ソ連館、アメリカ館は夜八時頃から、らくに入られる、自分はもう何十回も来て大体見てしまつた、という話して下さつた。この先生にかぎらず今日会つた関西の男の人達概して関東の男性より細々と気がつく様だ。毎日「オイ、コラ」になれている私などにはベタバタして少なからずうるさく感ずる程。つとめを終えて、朝食―給食センターでのセルフサービス、金百円也、昼食―配給された駅弁風の食事(分量も少ない)私など平生粗食になれていたのでいただけるが一般の先生方にはご不満のむきもあるらしい。私達はたかが一日か二日の奉仕だけ、毎日この給食で働いておられる万博関係のおつとめの方々には一寸かわいそうというより気の毒な感じがした。いそがしくどうにもならないだろうが何とかもう少しのしみのもてる食事にしてあげたい。本当にご苦労なことづくづく思う。

とにかく私のような筋でも患者さん方一応お礼を言つてかえつてゆかれる。私でも多少お役に立つことができたとの満足感が残る。

昨夜は「迷い大人」になつて先生方にご迷惑をかけたが、今日はやむなくひとりの行動。この広い万博会場を私はひとり歩いて歩けるのだと半ば気分が雑踏の広場へ出た。

◇万博土曜広場の一日

千葉県支部

和田 一恵

五月一七日早朝の小雨にイキ、昨日の埃りも拭かれた千里丘陵の朝。万博医療奉仕のために用意された宿舎を後にマイクロバスは桃山台から会場に十人余りの医療奉仕員を運んで呉れた。開場直前の静まりかえっている場内を中央診療所から土曜広場までの二八キロメートルを開場時間に間に合う様に夢中で歩いた。受持の診療所は土曜広場のソ連館の際、モノレール北口停留所の昇降口の直ぐ下にある。午前九時開場と共に診療所の窓越しに見える人の群が次第にふくらんで来ると同時に腹痛、胃痛、頭痛、さむけ等のクラシケの増えること十種類のくすりとム

万国博医療奉仕に参加して

静岡県支部長

仁瓶 礼子

万博医療奉仕の静岡県責任は七月八日からの一週間で私も四日間つとめました。

あの広大な会場の六カ所に設けられた診療所に、朝の九時迄にそれぞれの持ち場に行くことからはじまり、行つて見はじめたこれは大変なことだといふ印象を受けました。

又、一方アジアで初めての国際的な大行事に、日本女医会が医療奉仕をす

ンテラで応急手当は忙がしい。午前中は手間どつたが午後は案内スミーズに仕事は運んだ。その間一番困つた事は英語ならず日本語の解釈にとまどつたこと、青年男子の「パウプト、クララゲ」「テンボが、ヤブレテン」とは?。何回も会話のやりとりをして、看護婦はゲラゲラ笑うし、クラシケは赤面、アルツトはとまどうばかり、このクラシケの右背部には、鶏卵大膿瘍の頭がぶぎれていた。

医師(午前中二名、午後一名)看護婦二名の八時間勤務終了後土曜広場の人となる。真赤な強い夕日を反射してそびえ立つソ連館、それを取りまく蟻の様な日やけした人の群、いつはてるともなく集り来る人々の顔には長い長い夕日の陽足が輝いていた。

ることは大きな意義の有る事業だとも思いました。

百八十三日間の長期にわたつての奉仕活動の無事遂行に当つて三神会長をはじめ幹部の先生方のご配慮の並々ならぬものを強く感じました。特に三神会長の綿密な計画と、その実現のために必要経費の確保や、万博本部との交渉などに大活躍なされたことを伺い、深く敬意を表します。日本女医会本部事務局の皆さんも準備期間から終了後の残務整理まで、さぞ大変な仕事であつたことと存じます。会場の本部出張

所に勤務された事務局の人たちは、いつもやさしい笑顔と行き届いた応接で、訪れる先生方をねぎらつておられて感心いたしました。

又地元大阪の会員の先生方には格別なお骨折りをいただいたことと思ひます。なかでも藤本先生は宿舎の整備に献身的なご尽力をいただきました由、おかげで私たちはまことに快適に宿泊させていただきました。

ともあれすでに古稀をすぎた大先輩の先生や、現在多忙な日々若い先生たちの一人一人が、日本女医会員として一致団結し、奉仕の精神に徹した協力によつてはじめてこの大事業が成功したのだと思ひ今さらに団結力の強さを痛感いたします。

この度の事実自信と誇りを強めて、日本女医会が今後ますます発展することを祈ります。

東京都足立支部長

中条 みよ



中央筆者

EXPO70医療奉仕は同級会が三月十五日より一週間と、足立支部で四月一日より一週間の予定でしたが、同級会の方は開会早々でもあり軌道にのる

まで地元にお願ひした方がよいとの事で私が足立支部を八日間受持ちました健保の関係もあり人員が揃わないで心配いたしました。柳瀬路子先生の御支援により参加会員二十五名延六十三名が奉仕いたしました無事に任務を果させていただきました事先生方の献身的な奉仕の賜と感謝いたしております。参加者は敬称略柳瀬路子、海老原ふみえ、中沢弥生、田島静江、村松初枝、永田保子、原田敏、石川きみえ、小田幸子、羽田通恵、小宮山節子、金子泰子、江口寿子、新家すみい、野原カズ子、増田須磨子、金木政子、魏淑蘭、松岡初年、城所幸江、松沢長子、後藤明代、東野寿美、山本喜代、中条みよでした。私共は場内の月、火、水、土の広場及シンボルゾーン、エキスポランド等六カ所の応急手当所に分れて九時より十六時まで診療をいたしました。私は太陽の塔の下でお祭り広場に近いシンボルゾーン手当所に七日間勤務いたしました。患者が多く二人の医師で捌ききれぬ程の混雑でしたが看護婦さんが機敏に活躍され又むづかしい患者は中央診療所で引受けてくれましたので精神的にも安心してき助りました。交代後の見物も有名館は長い行列で入場できず歩け歩けで足が痛くなり閉口しましたが同勤の看護婦さんが私共をアメリカ館に特別入場させてくれましたので月の石も見る事ができました。皆々大喜びでした。

又魏淑蘭先生が場内でホステスをしておられる娘さんを同伴され日本館へ

案内していただき其上夕食の饗応にあ  
づかり疲労を慰やしていただいで本  
に嬉しく思いました。

特に同級生の木下、森村、浜田、恵  
木の諸姉が慰めの席を設けて明日への  
活力を補っていただき温かい友情に感  
激いたしました。

観客数六千四百人参加七十七万国  
未曾有の盛況にて大成功裡に閉幕した  
万博に日本女医学会は医療奉仕の大事を  
見事に成功させた事は最高の誇りであ  
って私共も国際的交歓に幾分なりとも  
寄与できたかと思えば嬉しい限りで  
す。生涯忘れ得ぬ思い出もなり歴史と  
もなる事と今更ながら良い事をしたと  
喜んでおります。

昭和四十五年十月十三日

奈良県支部

森本 秀子

万国博の会期もあと二十日となった  
八月二十五日(火)は、日本女医学会  
療奉仕の担当日であった。開幕以来、  
テレビや新聞は、毎日の入場者数を四  
十万、五十万、六十万等と報道し続け  
ていたし、夏休みも終りに近づき、ま  
だ見ぬ人は、せめて会場の雰囲気だけ  
でも……と、何度か足を運んだ人は、  
見残した箇所を……など焦りながら来ら  
れるのではなからうかと予想された。  
一方医療奉仕日の通知を受けた私は  
「非日常的な場所での診療について」  
如何なる態度で処すべきかを考え、女  
医会からの書類を二度も精読しておい

た。

当日は快晴であった。午前七時に車  
で出発。一時間半の予定が混雑のため  
やっと九時到着。女医会事務所まで行  
き、諸手続きを終え、シンボルゾーン  
応急手当へ向った。

晩夏とはいえ九時二十分ともなれば、  
太陽はざらざら照りつけては汗が流  
れる。アメリカ館や沿道の、ペリオン  
ではすでに長い長い人の列が見られ  
た。雲一つない青空、空気が汚れてい  
ないことがせめての救いであった。  
診療所のドアを押すと、もう七、八  
人の患者さんが待つておられる。白衣  
を着け消毒をすませてすぐ診察をはじ  
めた。幸い看護婦さんが二人いてカル  
テができていた。救救を見ると住所  
は、東京都、静岡県、石川県、滋賀県  
名古屋等遠来の人たちである。最初の  
人は昨日から冷たい飲物をとり過ぎ胃  
痛が激しい。次の人は「発熱三十八度  
六分頭痛、咽頭痛」次は「腹痛下痢頻  
回」次は「鼻出血」次は「結膜炎で目  
がいたみ腫れあがっている」次は「キ  
ック売場の混雑で押され、倒れて脛骨  
部の打撲擦過傷腫脹」。次は「歩いて  
いると上の歩道から洋傘が落下。頭頂  
部の裂傷」だ。帽子をかぶっておられ  
たから比較的浅い傷ですんだが……と  
内心おだやかでなかつた。次は「午前  
四時発の団体バスで来た子供が腹痛で  
ぐったり」完腸してあげ排便すると元  
氣をとりもどし出て行った。お母さん  
の明るい感謝の声を残して。

その他「頭痛薬を一服。腹痛薬を……

……。歯痛薬を……」など投薬だけでよ  
い人もある。もう安静室も待合室もい  
っぱいの人である。注射処置、冷あん法  
投薬など目の廻る忙しさである。そこ  
え担送されて来た婦人は「炎天下で子  
供さんを見失って自分さがしまわり  
心労と熱射で卒倒、けいれんをおこし  
ている」手当てを終って、午後三時半  
の交代時間が来た。ほっと一息ついて  
お茶を飲みながら、めまぐるしく過ぎ  
た六時間半を反省した。「人類の進歩  
と調和」の素晴らしい世界の祭典を、自  
分の目とハダでたしかめ、祭典に参加  
できたことを素直に喜びたいとやって  
来られたのに、病気でむなくベッド  
に横たわり、又見学できずに帰って行  
かれた方々の心に、たとえ応急処置で  
あつても、医療の本質的な暖かさを少  
しでも伝えることができただろうかと  
と。

さて医療の問題を考えると同時に、  
万国博会場の硬いメタリックな環境構  
成の中で、感情や情緒的なものをおし  
ころして、日本の約半数以上の六四、  
二一八、七七〇人もの人々が寒い日、  
雨の日、炎天下にも列を崩さなかつた  
エネルギーと秩序性に感嘆しながら、  
反面から見て、管理され統制され易い  
日本人を、どのように考えるべきなの  
か、そしてこの事実より我々は明日に  
如何なる哲学を持つべきなのかを、深  
く考えさせられたのである。

最後にスカンデナビア館が提示した  
公害問題は我々の今日的な重要問題で  
あり、生活の中に本当に人間性を取り

もどすべき明日への課題として受けと  
める要があると思われた。  
——一九七〇・九・一三——

### 初日寸景

東京女子医科大学支部

小松 郁子

日射病の続出する今(八月中旬)と  
は雲泥の差の三月十五日(日曜日)は  
晴天であるが一時的に曇ってそこを吹  
く風の冷い事!

私の配属したエキスボラランド応急手  
当所には電気ストーブとガスストーブ  
の二つでどうやらほっとする室温でし  
た。診療設備は充分の様でまだく完  
全でない点を中央診療所にも送った次  
第です。

新調社靴を履いたお嬢さんやホステ  
スの靴つれが四〜五名、おくれた冬の



白衣、学内、まだ、ステス、迷子の、診療所、ポス、エキス、が支

名残りの降雪の寒風で咽喉カタルを起  
す人、毎月万博見物を楽しみに農協に  
積立して団体で訪れた青森県の七十才  
前後の老婆はどこいつて別に悪くな  
いのに疲れと寒さで横になりたい一心  
で応急手当を訪れ、日本語でも全然  
わからない言葉で引率者を困らせてい  
た等々。

医学的には大した患者はおりません  
でした。

午前十時半頃、突然チンピラ風の  
(一寸背の低い)男が診療室の「電話  
を」と言葉少く入って来た。「公衆電  
話をお使いなさい。」と私が強く云う  
のもきかず、「本署ですか、只今学生  
デモ隊、男五十名、女五名の輸送車お  
願います」ガチャッ。驚いて気がつ  
いて見ると恰度全学連のデモ隊がこの  
エキスボ診療所の真前で騒ぎたて黒山  
の人だかり! 成程刑事もあの様な服  
装をしないと駄目なのか、何も開幕早

### ○役員選挙について

昭和四十五年八月十五日以後の入会  
会員の方は定款施行第七条により選挙  
権はありません。ただし議決権、発言  
権はあります。

### ○ルーペンダ

昭和四十五年十一月より会員に限り  
クローム一個二千元、金一個三千元  
右正価より一割引でおわけします。会  
員と記入して直推本部にお申込み下さ  
い。

早この寒い中をどうしてこんな騒ぎを  
 してかすのかしら。  
 のんき者の私は、唯あせんとするは  
 かり。午後は曇まじりの中で大阪市内  
 の高中小学生のブラスバンドのオンパ  
 レードがあり、可愛らしい小学生のパ  
 トンガールの素肌が寒そう。しかし皆

### 台風十号つめあと！

高地支部長

窪 敦子

一所懸命でやっています。再々催促  
 しましたが午後二時になっても昼食の  
 配給がなく早出の看護婦さんが気の毒  
 なので午前中に巡回慰問して下さいま  
 した三神先生のおいしいお菓子を皆で  
 分けあっていただきました。ありがと  
 うございました。



文字通りモータープールと化した高知市内

当支部には互助会の「杏栄会」とい  
 う基金をもっておりですので、今回始  
 めて、これを使うことになり緊急役員  
 会を開き決定致しました。

この度の台風は、毎年台風の通り道  
 に当たっている当地にとりましても、高  
 知市で五〇m、室戸で七〇mという、  
 高知地方気象台開設以来の記録を作っ  
 た超大型台風でありましたために、瓦  
 が飛んだ、塀が倒れた、窓硝子が割れ  
 た、看板、シャッターが破損した等は  
 軒並のことで、会員全体が大なり小な  
 り被害者であった関係上配分の線をど  
 こに引くかで検討を重ねまして、結局  
 (県医師会と同じ決定で) 床上浸水を  
 お見舞の対照とし、これに、浸水程  
 度、すなわち深さ、浸水期間、休診日  
 数などを考慮に入れて金額の決定にラ  
 ンクをつけました。  
 日本女医学会からは、別口として一  
 率に配分しました。端数の残金は、何

等かの形で、残りの会員の方たちに、  
 本部のご厚情を伝えるように計らい度  
 いと思っております。

まことにありがとう存じました、厚  
 くお礼申し上げます。  
 当支部発行の機関紙「杏桃」の臨時  
 号発行を計画しており、これに來年度  
 開催予定の日本女医学会総会のことを謳  
 いたいと思っております。なお万博の  
 医療奉仕のこと、水害のことなどを記  
 録したく原稿募集中でございますので  
 記載して、皆様にお伝えします。

高知は台風の通り道に当り、年々何  
 回かの災害に馴らされています。予報  
 で今度は大きいぞと警戒しているの  
 に、案外素通りすることが度重なった  
 ので、今回も何となく甘く考えていた  
 面もありますが、いよいよ台風上陸と  
 思った時には、停電となり、折柄満潮  
 時と一致したため、状況は解らないま  
 ゝで堤防が決壊(合計七十八カ所との  
 こと)したため、アツという間に泥の  
 洪水になってしまいました。

深いところは二mにも及び、二十四  
 万高知市民の四分の一が床上浸水、三  
 分の一が罹災者になりました。市のド  
 マンナカに自衛隊の舟艇基地ができて  
 ポートが行き交い、避難者や、おにぎ  
 りなどの救援物資を運ぶさまは何と申  
 したらよいでしょう。

何分水の引いた後のきたなき、浸水  
 した家財道具、畳雑貨から食品品に  
 至る、ありとあらゆるものが、道も狭  
 くと掘り捨てられて山積し、強い日照

りに腐敗して悪臭を放ち、人々はその  
 間の狭い隙間を伝い歩いて、親戚、知  
 人の安否を探し廻り、洗っても、洗っ  
 てもとれない、へドロのたまった家の  
 後仕末の大変さに、ねをあげ、疲れ果  
 て病気になる人が多くなりました。

最も案じられた伝染病の発生も、ど  
 うやら大事に至らず食い止められたの  
 は、市長さんが医師だったお蔭かもし  
 れません。

この度の水害の教訓は、勿論水害な  
 んか、二度と起らない防災対策をしつ  
 かりしてもらわねばなりません。平  
 家は危険、地下室は防水、排水装置が  
 完備していなければ全く困りもの、特  
 に病院の場合機関部給食関係は地下で  
 は全く駄目。

電気、水、ガスが駄目になった時は  
 日頃それらの恩恵に馴れすぎている我  
 々にとっては、全く原始生活にも劣る  
 こと、それにつけても病室を持つ病医  
 院では全く加工せず供することので  
 きる非常食を少くとも一・二日分は確  
 保しておかねばならないことを知りま  
 した。

この度は水害から免がれた、須崎市  
 の小出つる姉が翌二十二日午後には洗  
 剤その他の必需品をもって駆けつけて  
 くださる。膝を越す汚水で川になった  
 電車道を渡り水害地域として最も案ぜ  
 られた、竹村姉(一・二m)をお見舞  
 したので、案外に元気で汚水と闘  
 って整理を始めていられたのでホッと  
 しました。峯積姉(一・七m) 吉川田  
 鶴恵姉(一m) お二人とも自宅がひど

く目をそむけたくなる惨状でした。  
 廿五日にはお隣の日本女医学会愛媛支  
 部からの救援物資を小出、天野の両姉  
 が代理で届けに来てくださったので、  
 私も同乗し床上浸水の会員宅十軒を見  
 舞い、皆さんに大変感激されました。  
 更にその次の朝は小出姉は、同市海  
 岸在住の広本広子姉を見舞ってくださ  
 ったが、診療不能の状態であった由、  
 日頃お弱い方故さぞお力落しだった事  
 と思えます。

いつも乍らの小出姉の活躍振りに感  
 謝し「タノミ」にしています。お隣り  
 支部のご厚情に有難く感激しておりま  
 すところへ交通再開、電話開通と共に  
 各地から、次々とお見舞いの電話や救援  
 物資、お見舞品等々いただき、友情に  
 たただた感謝感激の毎日でございます  
 た。袖に涙のかかる時、人の心のまこ  
 とこそ知れ、ということをしみじみと  
 味わい、これからは心して自分のでき  
 ることはしなければいけないと反省し  
 ております。

右手首関節の古傷が、台風の馴れな  
 い手の使い方のため腫れたり痛んだ  
 り、診療に必要な手で休ませられない  
 ため長びき、皆様にお礼の手紙も書け  
 ずに失礼しておりましたが、ようやく  
 大丈夫となりました。これが私にとっ  
 ては最大の被害でした。

しかし皆さんがそれぞれ茫然自失の  
 状態から立ち直り元気にやっております  
 ので、ご放念くださいませ。  
 そして、來年度総会には、皆様にと  
 しても喜んでいただけるようにと張

りて腐敗して悪臭を放ち、人々はその  
 間の狭い隙間を伝い歩いて、親戚、知  
 人の安否を探し廻り、洗っても、洗っ  
 てもとれない、へドロのたまった家の  
 後仕末の大変さに、ねをあげ、疲れ果  
 て病気になる人が多くなりました。

切って準備に当っております。高知の復興振りをみるつもりで、お誘い合わせの上、多数ご出席くださいますようお願いしております。なおご希望のことがありましたら、予めお申し出てくださいましたら、できるだけ期待にそうよう努力する覚悟でおりますので、遠慮なくお出しくださいます。大変おくれればせながらお礼申し上げます。

- 罹災者宮  
宮地国栄 病院床上一・〇m 浸水  
智 峯積閑子 自宅床上 一・七m 浸水  
水 竹村陽子 診察室床上 一・二m 浸水

### 「四国女医学会」誕生す

今年度の東京での日本女医学会総会において来年(四十六年五月)の総会が高知で開催されることに決定したので、地元高知支部では開催地をおうけしたからには出席される皆様によることで頂けるやう、シャンとやりましようとして申し合せ、早速計画をたてることになりました。ところが観光に関して高知のみならず四国全体が対照となると考えられますのでそのためには隣接の各支部会員のご協力を得なくては不案内な処もできず、とてもスムーズにいけないことに気づきました。四国山脈に遮られてお隣の県へ行

### 高知支部 楠 目 節 子

- 吉川田鶴恵 自宅床上 一・〇m 浸水  
水 坂本広子 診療所 高波のため床上 一m 浸水  
坂本サチ子 診察室床上 五〇cm 浸水  
水 窪敦子 給食室 機械室、従業員宿 舎五〇cm  
山崎淑 診察室 床上 四〇cm  
寺尾澄恵 // 三〇cm  
安岡千歳 // 四〇cm  
出原輝子 自宅 二〇cm  
川田一子 診察室 床上 一〇cm  
藤井千賀 住宅屋根大破損 //

くより船で阪神地方へ出た方が早かった昔に比べて自動車も、国道Vルートも完全、マイカー族の増加によりレクリエーションの対照も四国はおろか空路九州から北海道へと出かける時代です。汐千狩は伊予之島へ、松茸狩は讃岐へ、医科大学と観潮は阿波へと出かけるのは朝飯前のごと、夏ともなればよさこい踊り、港まつり、高松まつり、あわ踊りと四国中を踊り廻る便利さになった現代、県単位の支部の上には四国は一つの四国単位があってもいいのではなからうか。この際四国中の皆さんに顔なじみになってもらってお互

いの話が通じあえるやうにしておきましようという事になりました。そんなことを機縁としての「四国内の皆さん一度集りましようよ」との高知支部の申出に応じて四国のほぼ中央、徳島県池田市(簡易保険保養センター)で集ることになりました。保険請求もすんで寛いだ気分七月十二日四国各地から集まる会員七十一名(愛媛13香川19徳島17高知22)で顔見知りもあり全然知らぬ会員もありでございました。前夜祭からの宿泊三十二名、その内各支部から数名宛集っての深夜に及ぶ説明並びに話し合いで「一つ四国女医学会とまとまりましようよ」との声には後日明の懇談会での総意を俟つことにして床にはいったのですが、中には夜明まで語りつづけた猛者もあったとか。高い山上の会場は七月半ばとも思えぬ涼味を川霧の晴間から現われた吉野川の光る川面と、四方の山々に感じ、多忙の中から出席した事を悔なく思ったことでした。

さて当日はすでにおなじみになった会員も半数以上ありましたが、会場ではお互い胸の大きな名札を見てはお名前とお顔を確認し、久瀧を叙し、或は初対面の挨拶を交しあう様子もうかがわれました。会高知支部楠目子の司会で午前十時から始まり、この度の集会の発起人としての高知支部長窪敦子先生から「従来日本女医学会に關しては地方にとって直接的關係が薄く無關心の人が多かったと思ひます。ここ数年來の懸案であった万博への医療奉仕も完了した現在、社団法人設立も実現し年間に立派な吉岡賞受賞者が発表され、長期間に培われた実力は国際女医学会に副会長を送り、数年後には国際女医学会開催も引き受けられる程になっていると三神会長は書いておられます。

地方で總會を開くことは会に對する地方会員の認識を高めると共に地方会員にとつては總會開催の目的達成のために協力しあうことにより一段と親密さを加えて團結を固める意味で有意義であり、一方出席会員にとつても日頃の多忙な仕事を離れて共に觀光の旅をすることにより、相互の理解、親睦の目的を達する点一石二鳥も三鳥もの効果を挙げることが期待される行事と考えられます。

地理的に最も不便な高知が選ばれたことにも何等かの意味があるかもしれませんが、私共は何となくして四国女医学会を結集して來年の總會を引き上げたいと念願しておりますのでどうか協力をお願いいたします。」のご挨拶、いろいろのご説明のつづいた後で「そこで皆さん!! 四国女医学会があつた方がいいでしようか? いかがでしょうか」との改めての提案に對し万場一致で四国女医学会が誕生したのでございます。

次いで會則等の審議に移り會則も決定、入会申込受けましたところ出席者全員入会いたしました。

そのあと会員の自己紹介や基金の審査委員であられた高知支部長窪敦子先生より保険請求についてのお話をお聞きし「お勉強」もしたり、記念撮影のあと徳島支部長藤田小冬先生の音頭で前途を祝福して万歳を三唱し会食に移りました。徳島支部の佐々木英子先生のヨーロッパ旅行談や高知支部小出つる子先生のオーストラリア旅行のお話などに時間の経つのも忘れ、初めての會合とも思えぬうちとけた集りでございました。次回は來年の三月頃、今回と同じ場所で開催準備に對して會談したいと考えております。

今後四国内のニュースがお互いに、より一層身近に感じられることと存じます。先づ第一号として過日の台風十号による高知市の惨状が報道されるやいちは早くお見舞い下さつたのもこの隣組の支部でございました。その節はありがとう存じました。あらためてお礼申し上げます。その後各支部で入会申込者も増えまして九月現在百拾四名の会員数でございます。

來年の日本女医学会總會開催地は小さな高知支部でございますが四国各支部が大協力をお約束下さいましたので、どうか皆様大勢ご出席下さいまして、高知の空に女医の集りがたのしく有意義に展開されますようにおまちいたしております。

尚序ながら高知での總會に對するご希望がありましたらどうかお申し越し下さいますように、リクエストにお応えするよう努力したいと思つております。

昭和四五年九月末日

### 日本女医学会愛知県支部事業報告

佐藤 千代子

からだの不調で悩む婦人、子供の不安を少しでもなくせたらー日本女医学会愛知県支部(森川みどり支部長二百六十人)が、全国に先がけて中区栄四丁目(泉医師会館)で「婦人、子供の無料健康相談」を始めてまる五年、地道な努力が続けられ、相談に来た人の感謝は勿論、その成果は各方面から注目されている。

同支部会員の間で「治療の忙しさに追われて患者の本当の悩みをじっくり聞いている余裕がなくなっている」という声を持ちあがったのは五年前の冬のこと。さっそく泉の医師会館を借り「婦人と子供の健康相談」の会を開こうという話がまとまり四十年一月から毎月第三月曜日を相談と決めてスタートした。会員の女医さん全員が全面的に協力、交代で自分の病院を休診にして相談を盛りだたした。

科も泌尿器科を除く、精神科・整形外科・内科・皮膚科・小児科・眼科耳鼻科・産婦人科の八科にわたって親身の相談が続けられた。スタートした四年は年間を通じて七百六人が訪れた。その翌年は半分ほどに減ったが女医さんたちの努力で年ごとに訪れる人がふえ、今年(十五年)の最終日まで七百六十二人が訪れた。五年間の科別の相談数は産婦人科がトップで百七十

人続いて眼科・皮膚科・耳鼻科小児科が各百人、残りが六七十人前後という状態。訪れた人の中には病院へ行かなくて三年間も重症婦人病を放置していた女性を早速に適切な医療を受けるよう公立の病院を紹介し、もっと早く相談に来ればよかったと感謝された。又夜尿症の子供をかかえる母親、奇型のなおし方などさまざまな母と子の悩みが寄せられた。このほか医学的知識不足から治療すればよくなる目をあきらめていた老女、子供のできない悩みの女性なども多かった。ある女医さんは「相談で一人の重症の婦人を発見することは百人のカゼひきを治療したことより有意義」と話す。同支部は来年も引き続き第三月曜日に無料相談を続けることにしており一月は十九日午後二時から第一日の相談会を開く。

この相談会も会員の心からの奉仕の結果で五年間続けて参る事ができました。全ての人が今迄、栄養とのみ信じて飲んでいた牛乳にも、薬にも、果ては呼吸をしている空気にさえ、生命に対する危険を感じ、要心しなければならぬ今の世の中で、病気になる時、不安感は一層堪え難いものであろうと思われまふ。そんな時病院を訪れる。医師としては患者の病気の性質の

裏面に何十倍かの心因的なものを感じ乍らも、現在の医療制度では限られた時間に多くの患者を診なければならぬ。その制約から離れ、たとえ月一回でも、患者の悩みに就いて十分に話し合う時、一様に示される安堵感に満ちた感謝と信頼のまなざし、医師としての満足感、それが私共のこの相談会を長く続けさせて来たともいえます。しかし一部には相談マニアの為に利用されているとか、マンネリの声も聞かれないではありません。唯今は医師会



五年もう相談無料の愛の指針へ同性の病める女

館の二階全部を使用して行っておりまふ。できれば、県内の各地で移動相談会を開く、或は無医地区に於いても定期的に開催できればと一歩前進を企図しています。昨年までは一ヶ月に三回各科別に行なっておりましたが、現在は相談者の便宜を考え月一回全科を同日に行っておりまふ。その他、前回にも報告致しましたが、支部の継続事業と致しましては

- ◎学術講演会：隔月 見学一回 受講者は毎回五、六十名
- ◎眼科研修会：隔月
- ◎社保研修会：年二回
- ◎純潔教育研究会：隔月
- ◎福祉活動：会員の病氣、災害見舞。八十才以上の会員のお祝(老人の日)。

レクリエーション(年一回) 新年会又は忘年会(年一回) 四十五年三月には会則を改正し、理事選挙施行規則を制定、それに従って在宅投票による新役員の選出を致しました。

又、新しく企画された事業として ◎吉岡・森川賞：吉岡賞を受賞された愛知県支部長森川先生がその賞金三十万円に私財二十万円を追加、五十万円として支部へ寄附されました。吉岡賞の受賞の意義を永く伝え、且、森川支部長の受賞を記念して、吉岡・森川賞を設定、年一回、女医の地位向上に努力した会員一名を表彰する事に致しました。

◎更に会の発展を計り、県下の全女医数を調査、女医会未加入の女医三百数十名に(現在会員二百七十名)加入勧誘状を発送致しました。若い世代への呼びかけとしては、育児や家庭と診療研究の両立に悩む女医も多い事と、それ等の悩みに就いて、仲間として、経験者として助言し合う会を持ちまふしよ!!と提案しました。身近な問題への連帯感から、ひいては「女医として如何に生くべきか」のテーマによる討論会を開きたいと企画しています。以上の様な継続事業並びに新規事業を、四十五名の理事が分担、正月も真夏も休まず、毎月第二金曜日に医師会館に於いて理事会を開いております。

編集後記  
本号は万国博医療奉仕特集号として原稿を募集いたしましたところ各支部より多くの先生方が記事をお寄せ下さったのでまことに感激にたえません。春三月十五日雪のちらつく寒い日の診療にはじまり、五月晴ありきらざら輝く太陽の下でのうだるような八月、また台風模様の日もあり、全会期一八三日間、会員諸姉の絶大なる協力によりすばらしい成果を挙げ無事終了いたしました事はご同慶の至りです。総会に間にあうように会誌を編集致しましたので、応急手当所の先生方の貴重な記録を記事としてまとめることができず残念です。

来年五月の総会地高知県は去る八月二十日台風十号に見舞われその被害甚大、支部長窪先生にはご多忙にもかかわらず報告の記事をお寄せいただきありがとうございました。 森千鶴記

昭和四十五年十一月一日 発行  
編集人 森 千鶴  
発行人 日本女医学会  
発行所 東京都新宿区市ヶ谷河田町19  
社団法人 日本女医学会  
TEL(34)〇九六八  
印刷所 東京都港区白金五-四-一  
興業美術印刷株式会社  
題字 吉岡 弥生